様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３４３１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０３１９７

研究課題名（和文）日本人カナダ移民の還流および国外追放による永住帰国者に関する地域横断的調査研究

研究課題名（英文）Trans-local Study on the Japanese Canadian Returnees and Deportees who Settled in Japan

研究代表者
和泉　真澄（Izumi, Masumi）

同志社大学・グローバル地域文化学部・教授

研究者番号：００３２９９５５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：期間全体を通して、カナダから日本に戦前に帰還した人々、および1946年の国外追放政策で日本に定住した人々に対し、聞き取り調査と個人資料の収集を行なった。日系人の戦争体験に関する一般の理解を啓発するため、展示の支援や公開講演を行なった。海外では、南アルバータの日系人を調査したほか、ツールレイク日系米人隔離収容所の勉強会に参加した。研究成果公開活動としては、『日系カナダ人の移動と運動―知られざる日本人の越境生活史』（小鳥遊書房、2020年）を刊行した他、国外追放者・永住帰国者の歴史を掘り起こす意義を分析した論考をアジア系アメリカ人研究に関するテンプル大学出版会出版の論集に寄稿した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本から海外に移民した人々の歴史は日本でも知られつつあるが、カナダ移民の歴史はあまり知られていないので、日系カナダ人の通史『日系カナダ人の移動と運動ー知られざる日本人の越境生活史』（小鳥遊書房、2020年）の刊行は大きな成果であった。カナダから国外追放され日本で定住した人々の戦後の暮らしに関する聞き取り調査や個人資料の収集を通じ、おそらくは散逸してしまうと思われる海外移住体験者の歴史を保存することは重要である。このような調査は、滋賀県や和歌山県のカナダ移民を輩出したコミュニティの活性化に役立つだけでなく、日本とカナダの歴史をつなぎ、移民史を通じて日本の歴史的国際性を見直す機会となろう。

研究成果の概要（英文）：Throughout the grant period, I collected interviews and personal historical materials from those who returned from Canada and settled in Japan as the result of the 1946 deportation policy. I supported some museum exhibits and conducted public lectures on the wartime experiences of Japanese immigrants in North America, in order to spread the general knowledge about the Japanese diaspora. I attended a research tour of the former Japanese Canadian community in Southern Alberta and also participated in the pilgrimage of the Tule Lake Segregation Center in the United States. I published a Japanese book of Japanese Canadian history, "Nikkei Kanada-jin no Idou to Undou [The Japanese Canadian Movement]" from Takanashi Publishers in 2020. I also published an article analyzing the Japanese Canadian returnees and deportees in an anthology, The Subject(s) of Human Rights: Crises, Violations, and Asian/American Critique (Temple University Press, 2019).

研究分野：日本人の北米移民史

キーワード：日系カナダ人　日系アメリカ人　戦争と人種差別　移民史　地域史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

第二次世界大戦期において、アメリカ合衆国に在住していた日系人が、市民権の有無に関わらず敵性外国人として強制移動・収容されたことは、研究者のみならず、一般の日本国民にも知られている。また、日本からアメリカに移民した人々の歴史に関しても、多くの研究があり、彼らの経験は学術研究だけでなく、小説、映画、個人の回想録、ノンフィクションの著作や映像作品などを通じて、多くの情報が公開されてきた。それに比べ、カナダ、オーストラリア、ニューカレドニア、太平洋諸島などにおける日本人移住者及びその子孫については、その大多数が第二次世界大戦期にドラスティックな移動を経験しているにもかかわらず、研究が少ないのが実情である。その中でも、日本からカナダへの移民の歴史は、日本の出移民研究やカナダにおけるアジア系移民研究の中で多少は取り上げられてきており、歴史学、国際関係学、地理学、社会学などの分野におけるそれなりの蓄積はある。しかし、移民研究において、移民の還流に関する研究の必要性が指摘されるようになったのは最近の傾向であり、カナダへ一旦移住し、その後日本に帰った人々や、第二次大戦後の国外追放政策で日本に送還され、その後カナダに戻らなかった人々の生活実態はほとんどわかっていない。現在、まだ生存している元移民たちやその世代と直接交流のあった子孫の世代への聞き取り調査を行い、彼らが所蔵する写真や文書などの記録を保存しなければ、移民に関する記録と記憶が永遠に失われる可能性がある。

２．研究の目的

カナダでは近年、第二次大戦中の日系人の財産没収に関する研究プロジェクト「**Landscape of Injustice**」が開始されたが、財産没収被害者には国外追放による永住帰国者が多数含まれているため、このプロジェクトは、カナダ側の資料のみに頼ることでは事実を明らかにできない面もあり、申請者は **2015** 年に、プロジェクト担当者より、日本にいる永住帰国者に関する調査協力の依頼を受けた。さらに **2014** 年末には、戦前の日系二世による野球チームを描いた映画『バンクーバーの朝日』が公開されたが、この映画をきっかけに、元朝日チームの選手と関わる永住帰国者の子孫などが、ファミリーヒストリーの探索を始め、申請者を含む日系カナダ人史の専門家との情報交換を進めてきた。元移民は高齢化し、彼らの記録や記憶は子孫にも伝えられておらず、急速に消滅しつつあることから、現在生存している元移民やその子孫ら、研究対象の当事者からも、聞き取り調査および、写真や文書などの所蔵資料の保存に対する強い要望が寄せられている。そこで、本研究の目的は、第二次世界大戦前に移民先のカナダから帰国し、日本に定住した元日本人移住者、ならびに第二次大戦直後にカナダ政府によって日本へと国外追放された日系カナダ人の、移住先での生活史と、帰国後の生活再建過程を明らかにすることである。日本でカナダからの帰国者を発見、調査することで、移民の還流に関する分析を行い、そこからわかった情報をカナダの研究者と共有するとともに、日本国家が越境経験者を戦後いかに国家社会に統合したかを明らかにする一助としたい。

３．研究の方法

第二次世界大戦前後に日本に還流した元移民は高齢化し、彼らの記録や記憶は子孫にも伝えられておらず、急速に消滅しつつある。これは、「移住」体験そのものが戦後日本社会の中でスティグマ化される中で、子孫にさえ、自らの体験をこれまで語って来なかった人が多かったためである。現在の日本では、戦前の海外移住の体験へのスティグマ化はそれほど強くなくなっており、むしろ移民の歴史を地域の町おこしに使うような自治体も現れつつある。このような移民に対する日本の一般社会の受容の変化を追い風としつつ、滋賀県や和歌山県などカナダへの移民を輩出した地域を中心に、聞き取り調査や資料収集、個人所蔵の資料のデジタル化などを行い、またそれらの資料を移民輩出地域のコミュニティやカナダにおける日系人関連の博物館、資料館と共有するための連携方法などを探る。また、研究成果を国内外の学会などで発表し、日系カナダ人史に関する知識の国民や海外の学術界への還元を図る。

４．研究成果

４年間の研究を通じて、滋賀県の湖東移民村出身のカナダ移民の子孫で、カナダ生まれの永住帰国者に聞き取り調査を行い、またカナダや帰国後の日本での写真を収集、デジタル化した。また、和歌山県出身のカナダ移民の子孫にもインタビューを行い、戦後の暮らしを一世やカナダ生まれの二世がどのように再建したかに関する情報を得た。また、日系カナダ人の歴史全般に関する研究を広く世の中に還元するために、学会発表や論文の発表だけでなく、通史の出版なども行なった。

2017 年度は、日本に第二次世界大戦前に帰還した人々、および **1946** 年にカナダ政府の国外追放政策の対象となり、日本にやってきた人々に関して、個人史を中心に資料収集した。活動としては、滋賀県出身でバンクーバーで文学活動を行っていた伊吹末次郎氏の長男、**M. I.** 氏よりライフヒストリーを聞き取り、また氏が自宅に所蔵していた戦前のバンクーバーのホームビデオをデジタル化することによって見られるようにした。ビデオには、戦前のバンクーバーの日

系人の生活、とりわけ県人会の活動などが記録されており、また戦時中のブリティッシュ・コロンビア州内陸部の収容所の様子も映されており、大変貴重な記録であることがわかった。また、カナダ在住の二世バジル・イズミ氏の親戚が日本にいることがわかり、イズミ氏の妹の M. T. 氏と連絡を行った。口頭発表として、Association for Asian American Studies 年次大会、日本移民学会年次大会、American Studies Association 年次大会、マイグレーション研究会例会で日系人強制収容所内の生活に関する発表を行った。また、6 月にはカリフォルニア大学ロサンゼルス校の David K. Yoo 教授を招待し、同志社大学にてアジア系アメリカ研究の歴史について、公開講演会を実施し、カリフォルニア大学でのアジア系のコミュニティの歴史を収集、保存、後悔するためのこれまでの活動を聞き、日本におけるそのような活動の必要性について議論した。

2018 年度は、前年度に引き続き、カナダ日本人移民の研究のうち、第二次世界大戦前に帰還した人々、および 1946 年にカナダ政府の国外追放政策の対象となり、日本にやってきた人々に関して、個人史を中心に聞き取り調査ならびに資料収集を行った。さらには、日系カナダ人の歴史的体験およびカナダにおけるさまざまな職業や娯楽、コミュニティの作り方などに関して、研究成果を社会に還元する活動の支援を行なった。具体的には、日系カナダ人の通史の原稿を執筆しただけでなく、同志社大学グローバル・コミュニケーション学部科目のプロジェクトとして行われた「第二次大戦中に海外にいた日本人の戦争体験」に関する調査と展示が行われることになったため、そこで語り部として情報提供を行うカナダ生まれの二世帰国者を紹介し、展示の打ち合わせに立ち会い、展示会にも参加した。また、前年からの調査の結果、バンクーバーの二世バジル・イズミ氏の父親のイズミ・ジョン・タダオ氏が、和歌山県からバンクーバーへ移住し、カメラマンとして活躍した様子、そして戦後の国外追放で家族とともに来日しそのまま日本に定住した経緯、帰国後の生活についての聞き取りを、バンクーバー生まれの娘である M. T. 氏と妹の E 氏に対して行なった。また、前年度に引き続き伊吹末次郎氏の長男のライフヒストリーの聞き取りを行なった。海外活動としては、7 月にカリフォルニアの戦時隔離収容所であったツールレイク収容所跡地の巡礼および研究会に参加した。10 月には、カナダのエドモントン市で日系カナダ人二世野球チーム「バンクーバー朝日」関連の研究発表を行った。

2019 年度は、単著 *The Rise and Fall of America's Concentration Camp Law: Civil Liberties* ***Debates from the Internment to McCarthyism and the Radical 1960s*** (Temple University Press, 2019)、および『日系カナダ人の移動と運動－知られざる日本人の越境生活史』（小鳥遊書房、2020）を出版した。また、日系二世の野球チーム「バンクーバー朝日」の関係者家族への日本における取材の成果を、アメリカの出版社から刊行されたアジア系アメリカ研究の論文集に掲載した。フィールドワークとしては、9 月 27 日に和歌山県御坊市美浜町三尾村のカナダミュージアム、カナダ資料館を見学し、トロントから訪問していた日系カナダ人二世 B. H. 夫妻の祖先の家と墓を一緒に訪問した。10 月 7 日にはカナダのカルガリーで Calgary Japanese Community Association との交流会に参加、8 日から 11 日までカナダ日系博物館主催の Alberta Sugar Beet Bus Tour に参加し、アルバータ州の日系人の生活に関して関係家族などの話を聞いた。11 月 17 日には滋賀県彦根市松原町にて、ハミルトンから訪問中の日系カナダ人三世、E. M. 夫妻の祖先の家と墓を一緒に訪問した。また、6 月 29 日に日本移民学会年次大会でバンクーバー朝日に関する関係者から調査結果を公表するラウンドテーブルを企画・実行し、本学社会学部学生向けに日系人の歴史を書き残す意義について講演した。

2020 年度には、コロナウイルス感染拡大防止のため、海外出張を実施できなかったが、国内での調査は引き続き行なった。zoom などによるオンライン会議やオンラインの講演会の利用が一般的となり、2019 年度に出版した単著などに関する講演会や書評会、公開講演などを行なった。2020 年 9 月 19 日に、彦根から出た移民に関する資料を収集するため、カナダ生まれで 1946 年にカナダからの国外追放政策で日本に永住帰国した兄弟である I 氏とともに、彦根市立図書館、及び I 氏の滋賀の故郷を訪ね、地元の寺院の僧侶から聞き取り調査を行なった。日系カナダ人の歴史に関する研究成果を一般に広げる活動として、10 月３日に「日系カナダ人通史の刊行と新たな研究の課題」と題し、マイグレーション研究会で Zoom による研究会発表をした。また 10 月 15 日に上智大学アメリカカナダ研究所『著者と語るシリーズ』で、拙著『日系カナダ人の移動と運動』を zoom で紹介。10 月 23 日には、ビクトリア大学の Jordan Stanger-Ross 教授とともに、"Midge Ayukawa Commemorative Lecture において、拙著 ***The Rise and Fall of*** *America's Concentration Camp Law: Civil Liberties Debates from the Internment to* ***McCarthyism, and the Radical 1960s*** (Temple UP, 2019)、および Jordan Stanger-Ross, eds. ***Landscapes of Injustice: A New Perspective on the Internment and Dispossession of Japanese Canadians*** (McGill-Queen's University Press, 2020)の合同書評会を行なった。また、12 月 28 日には、和歌山アメリカ村 Canada Museum 公開オンライン講座「移民でつながる Vol.1」において、日系カナダ人の戦前の歴史を主に和歌山県人を中心に解説した。

以上の調査および研究成果の公開を通じて、国外追放にあった日系人たちが、帰国後の日本において、英語力を生かした進駐軍関連の仕事や戦前から持っていた写真などの技能を生かしながら戦後の生活を再建し、個人のビジネスなどを興すことで生活基盤を整えていくなど、戦前に越境生活を選んだ時にもみられた進取の精神を戦後の生活にも発揮していることがわかった。しかし、戦後の生活再建においては、二世は日本の食べ物や生活習慣に馴染めなかったり、学校でいじめにあったりして苦労していた事実も垣間見られた。イズミ家の戦後のファミリーヒストリーにおいては、幼くして日本に来た子どもたちの世代が、二世である親がカナダ的な生活や

話し方、ファッション、生き方をすることで、日本社会の中で目立っていることを負い目に感じることもあったことが語られた。日本とカナダの間の戦争や、それぞれの国での排他的ナショナリズムが、これら越境者に苦難を与えていたこともインタビューからは読み取れた。

その一方で、現在の日本とカナダとの交流の中で、日系カナダ人が先祖の故郷を訪れたり、日本への定住帰国者がカナダの親戚を訪ねたりして、一度失われた絆を取り戻す例も見られた。このプロジェクトでは、研究者と移民コミュニティの間の情報共有の方法を考えることを目的としていたが、移民の母村を訪問したり、カナダでのエスニック博物館やエスニックなテーマのツアーに参加する中で、さらに具体的に今後情報共有の方法を考えていく必要があることが明らかになった。これらの点については、今後の課題としていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Masumi Izumi	４．巻 N/A
２．論文標題 The Vancouver Asahi Connection: (Re-)engagement of the Families of Returnees/Deportees in Japanese Canadian History	５．発行年 2019年
３．雑誌名 The Subject(s) of Human Rights: Crises, Violations, and Asian American Critique, Cathy J. Schlund-Vials, Guy Beauregard, Hsiu-chuan Lee, (eds.)	６．最初と最後の頁 56-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 和泉真澄	４．巻 12
２．論文標題 「イエローパワーの音楽」を超えて ： 日系アメリカ三世、ノブコ・ミヤモトのコミュニティ活動と音楽の変遷	５．発行年 2019年
３．雑誌名 GR ： 同志社大学グローバル地域文化学会紀要	６．最初と最後の頁 101-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 IZUMI, Masumi	４．巻 29
２．論文標題 Gila River Concentration Camp and the Historical Memory of Japanese American Concentration Camp	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Japanese Journal of American Studies	６．最初と最後の頁 67-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 和泉真澄	４．巻 文理閣
２．論文標題 アメリカにおける盆踊りとジャパニーズネスーロサンゼルス洗心寺に見るエスニック・マーカーの多層性	５．発行年 2018年
３．雑誌名 河原典史、木下昭編『移民が紡ぐ日本－交錯する文化のはざまで』	６．最初と最後の頁 130-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　1件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 Masumi Izumi
2．発表標題 The Stockade Diary of Tatsuo Inouye: Thoughts and Experiences of a Kibei Judo Practitioner in the Tule Lake Relocation Center
3．学会等名 Association for Asian American Studies, Madison, Wisconsin, U.S.A.（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Masumi Izumi
2．発表標題 Remembering is Not Enough: Continuing Misconstruction of Japanese American Exclusion Cases as Legal Precedents
3．学会等名 アメリカ学会年次大会 Workshop E “Contingent Citizenship: Have the Korematsu Decisions Been Overturned ?” 法政大学
4．発表年 2019年

1．発表者名 Masumi Izumi
2．発表標題 Starvation, Sickness, and Shaved Heads: Alien Bodies and Resistance in the Japanese American Segregation Center
3．学会等名 American Studies Association, Honolulu, Hawai‘i, U.S.A.（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 IZUMI, Masumi
2．発表標題 Lost and Found: Reconsidering ‘Diaspora’ in Japanese Canadian Experience in Canada and Japan
3．学会等名 Japanese Studies Association of Canada（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 Masumi Izumi
２．発表標題 ‘Women’s World’ in Japanese American Concentration Camps: Excavating Issei Women’s Thinking from the Gila News Courier
３．学会等名 Association for Asian American Studies（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 和泉真澄
２．発表標題 ある帰米二世によるツールレイク隔離収容所監房獄中記の分析
３．学会等名 日本移民学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Masumi Izumi
２．発表標題 A Textbook of Wrath: An American History Textbook Authored by Japanese Scholars to Counter Hate
３．学会等名 American Studies Association（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 和泉真澄
２．発表標題 食の観点から見るツールレイク日系人隔離収容所監房獄中記
３．学会等名 マイグレーション研究会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

1．著者名 Masumi Izumi	4．発行年 2019年
2．出版社 Temple University Press	5．総ページ数 274
3．書名 The Rise and Fall of America's Concentration Camp Law: Civil Liberties Debates from the Internment to McCarthyism and the Radical 1960s	

1．著者名 和泉 真澄	4．発行年 2020年
2．出版社 小鳥遊書房	5．総ページ数 340
3．書名 日系カナダ人の移動と運動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関